

ニュートン著「プリンキピア」特別展示

2019

10/15(火)~11/1(金)

名古屋大学 E S 総合館 2 階 2008 ノーベル賞展示室

ニュートンによる運動の3法則がまとめられた教科書原本の特別展示
展示にあわせて特別講演会も開催します

プリンキピア特別講演会

登録不要 無料

10/19(土) 13:00~14:00

於 2008 ノーベル賞展示室

「芸術と数学と物理学を結ぶ準結晶の神秘」

講師 佐藤 憲昭

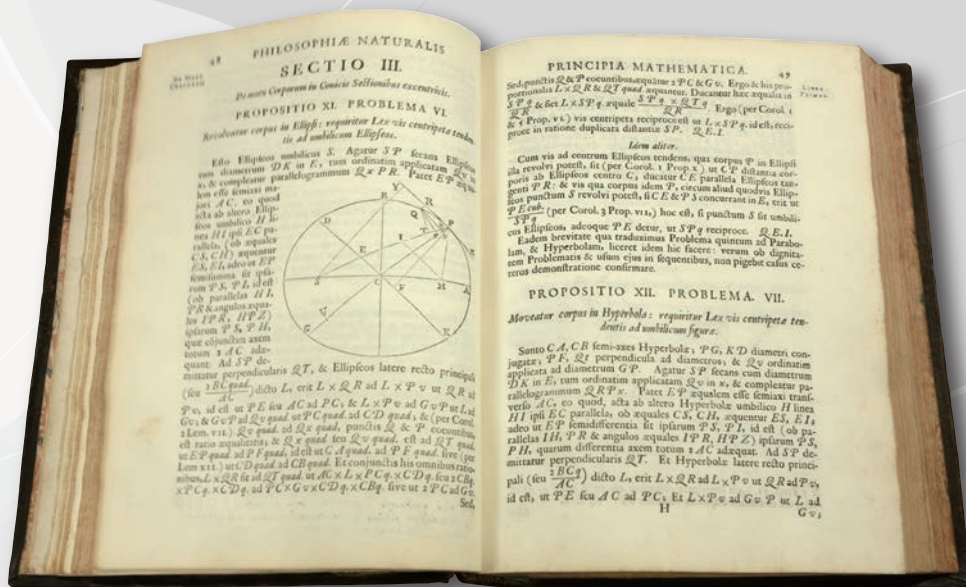
理学研究科物質物理学専攻 教授



アイザック・ニュートン
1643年~1727年

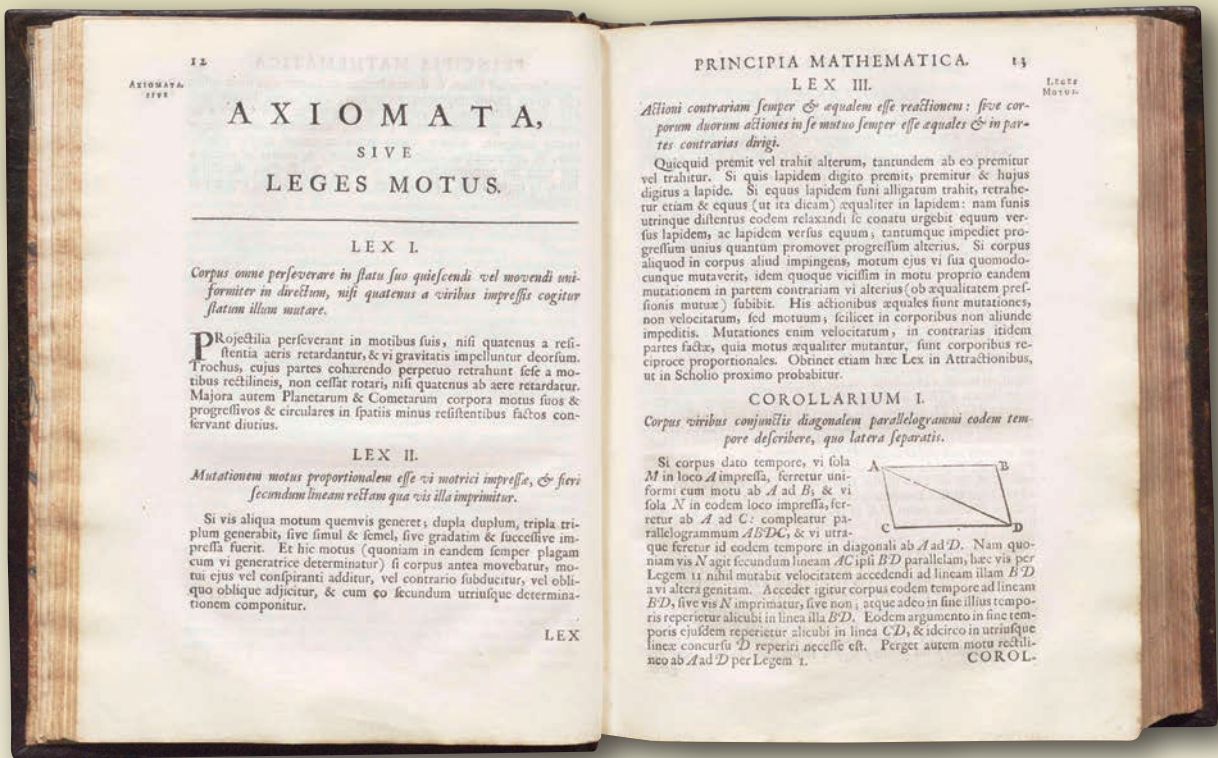
<概要>

ダン・シェヒトマン (2011 年ノーベル化学賞受賞) が 30 年ほど前に発見・報告した準結晶は実に奇妙な物質である。その構造は、芸術にしばしば登場する黄金比によって特徴づけられ、またフィボナッチ数列とも関わっている。しかし、その物理的性質は謎に包まれたままであり、超伝導が (我々のグループによって) 発見されたのは僅か 1 年ほど前のことである。本講演では、準結晶を覆っている神秘のベールをはがしていきたい。



「自然哲学の数学的諸原理」(ラテン語原題 Philosophiæ Naturalis Principia Mathematica) は、「プリンキピア」(Principia) という略称でよく知られている。展示する第2版は1713年に出版された。

初めの方で、「運動の3法則」(Lex I, Lex II, Lex III) がまとめられた部分



第2章 (SECTIO II.) 「中心力問題」の冒頭部分

命題1 (PROPOSITIO I) 定理1 (THEOREMA I) は、中心力による運動では、質点は同一平面上を動き、また面積速度が一定という「ケプラーの第2法則」を証明している。



特別展示 ニュートン著「プリンキピア」第2版(1713年出版)

交通案内
 名古屋大学 ES総合館 2階 2008 ノーベル賞展示室
 愛知県名古屋市千種区不老町
 名城線 名古屋大学駅 ②・③番出口